

カスリーン台風時と現在の比較

昭和22年当時の航空写真



平成23年11月現在の航空写真



国土交通省 関東地方整備局 渡良瀬川河川事務所

〒326-0822 栃木県足利市田中町661-3 TEL0284-73-5551 (代表)



(令和4年9月作成)

決して忘れてはならない カスリーン台風



渡 良瀬川流域は、カスリーン台風
によって、未曾有の被害を被りました

河川や砂防の整備も進み、未曾有の被害をもたらしたカスリーン台風も市民の記憶から次第に薄れようとしています。しかし、決して忘れてはならない災害であり、洪水による被害の恐ろしさを再認識するとともに、普段から洪水などの災害に対する心構えや備えをはじめ、川づくりや砂防事業にご理解いただき、未来に向けて人と川との関わりをさらに大切にしていきたいと思います。



渡良瀬川流域各地に、記録的な豪雨をもたらしたカスリーン台風

カスリーン台風の気象状況

昭和22年9月8日3時、マリアナ諸島東方1,000kmの海上に発生した1,010hpaの弱い低気圧は、次第に勢力を強め11日3時頃にはマリアナ諸島西方500kmの海上に達して中心気圧994hpaとなり、台風としてはっきり認められるようになりました。この台風はカスリーン(KATHLEEN)台風と呼ばれることとなりました。

その後さらに発達しながら方向を変え15日朝6時頃には浜松南方170kmの沖合に達し、15日夜には房総半島南端を通過し、北海道南東海上に消え去りました。

カスリーン台風の雨量状況

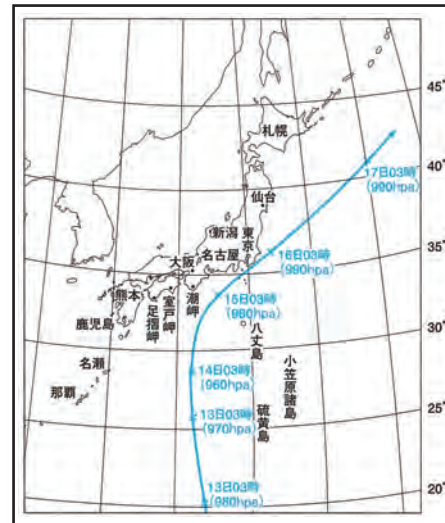
カスリーン台風は本州に近づき暖湿気が侵入して13日より各地に降雨をもたらしましたが、15日から16日にかけて房総沖をかすめて北東へ去るまでの間、南東に面したところでは降雨が200mm以上となりました。なかでも秩父においては13日11時20分～15日20時40分の間に610.6mmという記録的豪雨となり、最大1時間雨量(15日13時～14時)は78.0mmに達しました。この降雨はあらかじめ秋雨前線によって多少雨がかったところへ台風による豪雨が加わった点が特徴です。

桐生と足尾における今回の3日間雨量を、近年までの主な洪水時の雨量と比較した表を下に示しました。カスリーン台風の降雨量は桐生観測所においては既往最大値であり、さらに足尾観測所でもかなり大きな値となっています。

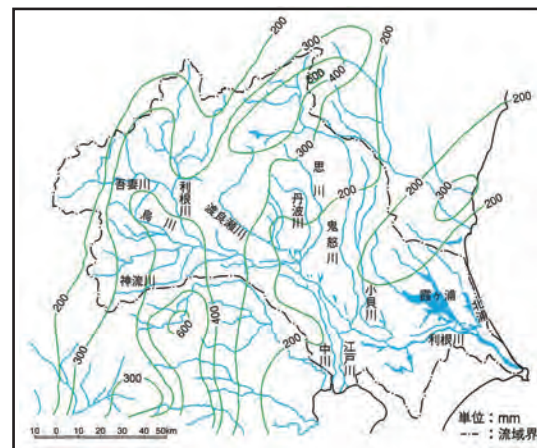
3日間雨量の比較

河川名	観測地名	降雨量(mm)				
		S22.9.13~15 (カスリーン台風)	H14.7.9~11	H13.9.9~11	S41.9.22~24	M43.8.8~10
渡良瀬川	桐生	382	274	129	152	180
//	足尾	385	421	493	322	259

■昭和22年カスリーン台風進路図



■雨量分布図



足利市の被害のようす



足利市のようす(郵便局保険分室前)



商店街にはん濫した洪水のなかを歩く人々(足利市通2丁目)



浸水した街中を歩く人々(足利市通2丁目)



浸水状況(足利市通6丁目付近)



浸水した市内を歩く人々(足利市内)

桐生市の被害のようす



倒壊した新川グランドのスタンド(桐生市稲荷町)



二階より高く押し上げられたトラック(桐生市境野町)



桐生川にかかる旧50号線境野橋の被害(桐生市境野町)



新川グランド付近に堆積した土砂(桐生市稲荷町)

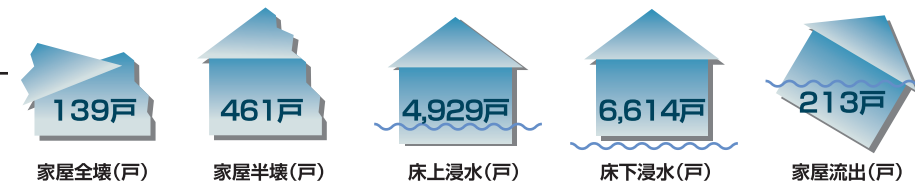


流失・倒壊で家を失った子供(桐生市内)

足利市の家屋の被害



桐生市の家屋の被害



あの日、あの時の記憶が蘇ってくる生きた証言！

災害記録集による体験談より (1)

カスリーン台風による足利の大洪水。あのときの記憶。当時足利市県町在住の女性
一夜にしてあまりにも悲惨な出来事が、起きようとは誰も思っていなかった。
昭和二十二年、残暑の厳しい九月中旬、台風の為停電、何となく不気味な感じがしていた。突然、
土手が切れた。土手が切れたぞーと、消防団らしき人の声と共に、ゴーゴーと凄まじい音がして、家
の中に水が流れ込んできた。見る見る水嵩は増し、畳が浮き上がり、家財道具は倒れ、何もなす術
がない。押入れの中が上がったが、水はひさしまでできてしまった。家の外はずしんと何やら音が
している(後で分かった事だが、〇〇工業の材木が流れてきたのだった)。もうだめだ……このまま水
に溺れてしまう……その時兄が、押入れの板をはがし、屋根を突き始めた。
屋根に上がるんだ……トタン屋根だから大丈夫だ……やつとはがれたが、母は「自分に構わずお
前たちだけ行って」と、涙を流していた。「ここまでくれば生きるも死ぬも一緒だよ……」無事に母
を屋根に上げたが目が回ると言う。それもそのはず、すごい濁流だった。屋根の下にある格棒を利用
して、母をうつ伏せにしばったが、内心私も家ごと流されると思うと、涙が溢れてきた。
屋根には隣近所の人もいたが皆不安そうだった。急に誰かが大声で「星が出ています。台風は通り過
ぎたから頑張るんだ！」天は星、地は濁流、屋根は人、まさにこの通りだった。濁流の音に入り交じ
って悲鳴が聞こえてくる気がした。

流れ行く 人々の声 遠くなり

ひもだけが 手首に残る 子供かな

とても口では言い表す事が出来ない程、皆無残な姿だった。又、水に流されながらも、木や板につか
まり奇跡的に助かった人もいたが、行方不明の人もありいたという。
当時は終戦直後の事で、食糧難、物資不足の中、大きな水害が出た為、苦しい日々が続いたが、屋
根の上で私も、奇跡的に助かった事は生涯忘れられない出来事だった。
あれから五十年、改めて亡くなった方々のご冥福をお祈りしたいと思います。



激しい流れのなか命綱を頼りに歩く人々
(足利市通2丁目)

災害記録集による体験談より (2)

キャサリン台風と私 当時足利市大前町在住の男性
いまから約五十年前の昭和二十二年九月十五日の出来事です。私は新制中学一年十三才の時です
が、あの時の事は昨日の事に記憶して居ます。あの日は数日前からの雨が朝から降っていて親達
は「カサリン颱風が来ている」と話していました。自分達子供は休みで、前の袋川の増水を楽しみな
がら見ていました。(現在の第三中学校北側の生まれです。)又、雨颱風ですので昼間増々強く降っ
ているのに、親の話ではまだ浜松付近だと颱風の位置は二百キロも先と話していました。
夕方頃になり袋川も増水で親達も水害に備えて家の中の家具や畳を床上浸水を予測して片付
け始めました。私達は夜七時半頃に停電してしまいましたので自転車が発電ランプを灯けるので夢
中でペダルをこぎました。その時、近所の警防団員の人が「渡良瀬川の水が堤防を越えた」と知らせ
に来て間もなく、半鐘が鳴ると同時にゴーと大きな音がして、父が「土手が切れたぞ」と大声で怒鳴
った。「逃げる」と云うので父子八人がすぐ裏の出口から線路(両毛線)に上った。どこに行くのかと
思ったら、父の実家で二階が有るのでそこに行くと話した約六百メートル先です。だがアツと云う間
に水が線路脇の歩道にそして枕木、レール上にそして三十センチも上に水が来てしまう。流れは
激しく早く、水は大変冷たい。小雨が降っていました。又、母は末弟の子供二歳を背負っていました。
勿論夜の八時を過ぎていたので真っ暗闇の中、親子八人が激流の中を枕木とレールを頼りに
逃げて行きました。逃げる途中私が一番心配したのは汽車が来たらどうしようと思いつながら西に向
かって死に物狂いで逃げました。現在の三中の西側の道路二九三号の所まで来ると、線路の枕木の下
など盛土がすっかり流失してレールが浮き上がっていた。母が末弟を背負ったまま枕木の間に落ちて
しまった。流れに足をすくわれて、レールにしがみ付いていましたが、もはやこれまでと覚悟しました
が、父が急いで引き上げて一命を失わず済みました。やつとの思いで父の実家にたどり着きましたが、
暗闇の中で遠くオイオイと誰かを呼ぶ声があちこちで聞こえました。もし昼間だったら助かる
人も多いでしょうが、私達は体が凍んで立往生したことでしょう。家族八人が一人も死なず逃げられ
たのが奇跡なくらいです。

次の日の朝辺りを見ますと、現在の三中から西南の小林機械の方は一面水浸しと流失家屋が島の中
に流れ着いていまして、二三人の人が屋根に乗っていました。あらためて渡良瀬川の決壊の恐ろ
しさを見せ付けられました。そして家に帰って見ますと、家の中は見る影もなくやられてしまい手の
施し様もなく、ヘドロが土間から二尺も溜まって土出しに一ヶ月もかかり、私は学用品もなく一ヶ月近
く休校し、寝る所も食べる物もなく、わずかに水に浸った芋を食べていました。今ではウサギ以下で
す。餓死しないでいたのも不思議なくらいでした。

助戸三丁目(現千歳町)の決壊場所付近では約八十人位の人が亡くなったと聞いています。私の同
級生も七人位亡くなって今だに見つかっていない人もいます。後で現場を見に行きましたが、周りに
大きな水害池が三ヶ所程できていました。あれから五十年も過ぎましたが、私達は両親共々戦争と
水害、食糧難に遭い、現在の自分達の子供や若い人達に今の様な生活はいつまでも続かず、必ず一生
に一回く二回は大変なことが有ると子供達に昔話として伝え語っています。
今なら写真やビデオカメラ等で証明ですがね。



枕木の下に盛土が流れてレールが
浮いてしまった両毛線(足利市通1丁目)

災 禍の記憶を21世紀に継承するため シンボルタワー「清流わたらせ21」が建てられました

お地蔵様の由来

昭和22年のカスリーン台風により、(株)小林機械製作所の敷地内でなくなられた方を含めた被災者のために、同社社長小林忠蔵氏が、その敷地内にお地蔵様を建立し、相談を受けた地元の徳蔵寺三十三世源田晃貫住職と共に毎年供養を続け、弟子の晃澄氏も加わって心を向ける中、昭和28年には市内の仏教徒のボランティア団体である佛導会が隣りに供養塔を建てて供養を続けていました。

その後、決壊から50年(平成8年)を機に、遺族の方々、寺院、自治会、学校の御協力により慰霊碑保存協議会が結成されました。

平成11年には小林機械製作所跡に足利警察署の施設が建設されることとなり、お地蔵様と供養塔は足利市岩井町の堤防上に移設されました。この年、慰霊碑保存協議会は犠牲者の情報提供を求めるための回覧を行い、新たに26名の方が判明しました。翌年平成12年に供養塔の横に石碑とシンボルタワーが建てられ、石碑には317名の御芳名が記載されました。令和4年9月現在321名の御芳名が記載されています。

毎年この堤防上で、遺族、僧侶およびボランティアとともに供養が続けられています。



移設前のお地蔵様(現 足利警察署前)



慰霊碑保存協議会 (令和4年9月現在)

代表	源田 晃澄 (徳蔵寺住職)
	木村 好文 (県議会議員)
	西田 智男 (市議会議員)
	黒田 富明 (足利市自治会長連絡協議会副会長、千歳地区連合会会長)
	田中 晴司 (千歳地区社会福祉協議会会長、岩井町自治会長)
	地元地区自治会長
	ほか水害者遺族

「清流わたらせ21」について

「清流わたらせ21」は、カスリーン台風による災禍を21世紀に継承し、「渡良瀬川とそこにすむ人々がひとつになった水害のない明るい未来」への願いを込めて、水害犠牲者の御芳名を記した石碑と共に平成12年3月に建てられた高さ4.5mのシンボルタワーです。

3本の柱からは、流れる川の文字や水の文字が浮かびます。また、人々の生活に大きな関わりをもつ渡良瀬川の川づくりに必要な、「洪水から町を守るための治水」「人々の暮らしに必要な水を確保するための利水」そして、「憩いの場やレクリエーション、自然とのふれあいの場としての環境」という3つの柱も意味しています。丸い球体は、渡良瀬川の周りにすむ人々の平和な町と生活を、その上部の広がり、人々が明日に向かって夢を求め、石碑にも刻まれている「渡良瀬川とともに」協力して明るい未来を創っていくことを表わしています。

「清流わたらせ21」除幕式典

(平成12年3月26日)



カスリーン台風による惨事を、 後世に伝えるための活動が続けられています

■被害者の追悼に関するあゆみ

昭和22年 (1947年) 9月15日	カスリーン台風により 渡良瀬川決壊
昭和23年 (1948年)	小林忠蔵氏が自費で お地蔵様を建立
昭和28年 (1953年)	佛導会が供養塔建立
昭和42年 (1967年)	岩井分水路完成
昭和47年 (1972年) 9月15日	渡良瀬川河原にて 佛導会が地蔵流しを行う
平成8年 (1996年) 9月16日	50回忌追悼式
平成11年 (1999年)	お地蔵様と供養塔を 岩井町堤防上に移設
平成12年 (2000年) 3月26日	シンボルタワー 「清流わたらせ21」と 石碑の除幕式 317名の御芳名を記す
平成18年 (2006年) 9月15日	60回忌追悼式
平成19年 (2007年)	お地蔵様再建
平成23年 (2011年) 9月15日	65回忌追悼式 銘板差替除幕式 321名の御芳名を記す
平成26年 (2014年) 8月19日	足利市役所にて カスリーン台風語り継ぎ
平成27年 (2015年) 7月2日	足利市立第三中学校にて 防災講話開催
平成28年 (2016年) 9月15日	70回忌追悼式
平成29年 (2017年) 9月21日	防災講演会 「カスリーン台風から70年」 開催

※追悼式は、現在毎年9月15日に実施

50回忌追悼式の様子

(平成8年9月16日)



銘板に4名の御芳名が追加された 65回忌追悼式の様子

(平成23年9月15日)



銘板を新たにした石碑の除幕式

新聞による報道状況

(下野新聞 県南・両毛版)



(平成23年9月17日)

カスリーン台風語り継ぎ(足利市役所)

(平成26年8月19日)



防災講話(足利市立第三中学校)

(平成27年7月2日)



防災講演会(足利市民プラザ)

(平成29年9月21日)



カスリーン台風から60年 心のよりどころ永遠に

慰霊のお地蔵さん再建

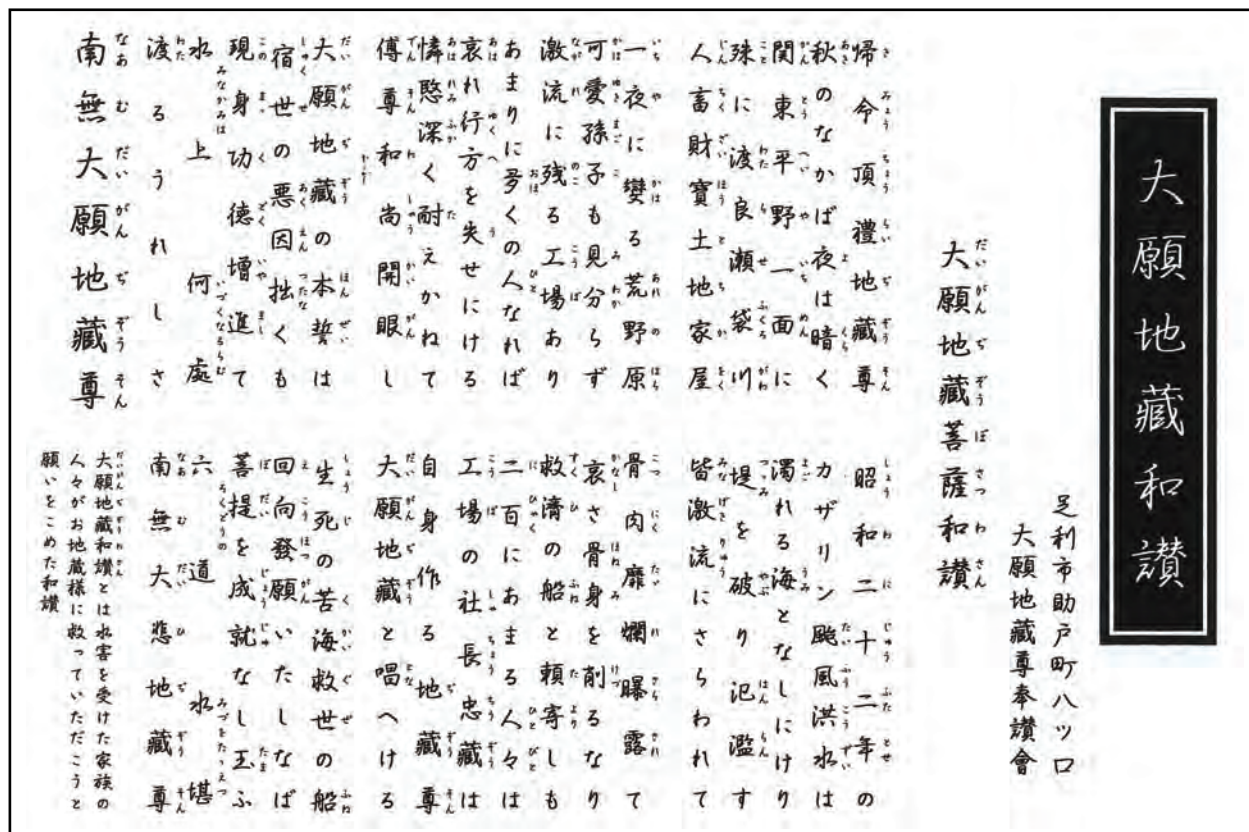


(平成19年8月1日)

カスリーン台風を わたしたちの心に刻みつけて おくために――

だい かん し ぞう ぼ さつ わ さん 大願地藏菩薩和讃

大願地藏菩薩和讃とは、水害を受けた家族の人々がお地藏様に救っていただこうと願いをこめた和讃です。



現在祀られているお地藏様

地藏流し 渡良瀬川河原 (昭和47年9月15日)

佛導会の350名の信者によってお地藏様は1体1体渡良瀬川に流されました



カスリーン災害記録集

カスリーン台風による悲惨な経験を後世に伝え、水害に対する防災意識を高めるため、当時の体験談や記録写真を集めた「カスリーン台風災害記録集」を平成10年6月に作成しました。当時の被害写真を収録した洪水写真集と、洪水の聞き取り調査による体験談集の2分冊になっています。渡良瀬川河川事務所のホームページに掲載されておりますのでご覧ください。



カスリーン台風爪痕の記録

カスリーン台風による洪水のはん濫状況を実感してもらうために、実際に洪水を経験された人々のお話しをもとにして、足利市内の旧国道50号の交差点8カ所(助戸1丁目から通4丁目)の街路灯や、足利警察署前(小林機械製作所跡)などに、はん濫水位を記録しました。当時のはん濫の状況を思いめぐらせてみてください。



足利警察署前(足利市千歳町)



あずま児童公園(足利市伊勢町)



足利市通2丁目交差点



洪水・土砂災害ハザードマップ

洪水・土砂災害ハザードマップは、河川のはん濫による浸水予測や、土砂災害の予想範囲、避難時の情報や心得を示したものです。市のホームページからも見ることができます。

水害から命を守るためには、平時より水害リスクを認識したうえで、氾濫時の危険箇所や避難場所についての正確な情報を知っていただくことが何より重要です。

